

## 第1回基町地区活性化計画協議会の協議結果

### 1 日時等

日 時：令和元年5月27日（月）19時00分～20時00分

場 所：基町中央集会所

出席者：徳弘委員、瀬戸口委員、中村委員、有馬委員、植田委員、本田委員、山本委員、  
橋場委員、今富委員、石田委員

報道関係：5社（広島テレビ、ホームテレビ、中国新聞、テレビ新広島、RCC）

傍聴者：4名

### 2 協議結果

#### (1) 座長の互選等について

ア 座長の互選について

中村委員が発議し、全会一致にて徳弘委員が座長に選任された。

イ 座長の職務代理人について

徳弘座長が、座長の職務代理人として瀬戸口委員を指名した。

#### (2) 議題1 基町住宅地区活性化計画のこれまでの取組の成果と課題について

資料1により説明した。

（石田委員）

- ・基町ショッピングセンターの入口などバリアフリー化もされているので、成果と言えるのではないかな。

（山本委員）

- ・社会福祉協議会の取組も記載されており、成果として挙げているのは違和感がある。

（広島市）

- ・地域が主として取組むものとして記載している。

（中村委員）

- ・平成25年の活性化計画によろやく日の目が当たったと思っている。
- ・5年経ち状況が変わっている。地元も含めできていないものもある。
- ・これを変えていこうというのが、今回の主旨であり、これからのことを考えていくことが大事。この計画を実現させていくことを望んでいる。

（徳弘座長）

- ・今の活性化計画は途中で中断した。
- ・スピード感を持ってやっていきたい。反省ばかりではいつまでたっても前に進まない。
- ・行政の力が無いとまちづくりはできない。力をお借りしたい。

#### (3) 議題2 基町住宅地区活性化計画の改定方針について

資料2により説明した。

（中村委員）

- ・資料は良い事が書かれている。
- ・このスケジュールで取りまとめることは分かるが、その間で（基町地区活性化）検討委員会をどう進めるか、お互い話し合わないとな前に進まない。

- ・地元への情報提供はありがたい。情報は速やかに地元を提供してもらいたい。

(植田委員)

- ・ビジョンは簡単には実現しない。
- ・地元の要望を聞くだけでなく、どう活用するかを考えてもらいたい。
- ・若年世帯の特例的入居制度もまだ知られていない。

(広島市)

- ・担い手の確保が課題だと思う。特例的入居者がどのように地域に関わっていけるか、検討していきたい。

(徳弘座長)

- ・若ければいいというものではなく、地域のためになってくれる人でなければダメ。
- ・若年（世帯）で入居した方で、問題のある方もいる。指導してもらいたい。

(瀬戸口委員)

- ・空き家が968戸ある。入居を進めてもらいたい。活性化はいろいろあるが、人間を入れるのが一番。平成34年の（住戸改善）工事の完了を待っていては遅い。どんどん入れてもらいたい。

(広島市)

- ・住戸改善工事の完了を待たず、できる限り空き家を公募に出していく。

(有馬委員)

- ・担い手不足は深刻。
- ・特例的入居は推進してもらいたい、学生などを入れても腰掛けではダメ。基町で育った、基町をふるさとに持つ人が増えてほしい。
- ・高齢者だけでなく、子育て世代も住みやすい、子どもの遊び場なども意識したようなまちづくりも必要ではないか。

(中村委員)

- ・4月からよくやってくれているが、縦割りではダメ。横の繋がりをもって、（窓口である）中区と連携する体制を整えてもらいたい。

(本田委員)

- ・当初の計画のような大層なものはいらない。
- ・結局6年間何もしてくれていない。
- ・（まちづくり）ビジョンの潤いとは何のことか。精神的潤いということか。
- ・今住んでいる人、基町で育った人が大事なのに、基町から転居せざるを得ない人を無くすとか何も書かれていない。
- ・特例的入居だけではダメ。一般入居でも入りやすくしてもらいたい。
- ・若年の特定の入居の入居期間10年の縛りは外してほしい。
- ・特例的入居の入居者名簿がほしい。
- ・中区建築課では入居手続きに不備が多く、横柄な態度で、呼びつけられて、入る気を無くしている。入りやすくしてもらいたい。
- ・5年前から（基町地区は）国有地（だからいろいろ制限がある）と言っているが、それなら、市が買って市の思うように使えばいい。サッカー場よりそちらにお金を使ってほしい。
- ・活性化の結論が出るまでは、家賃をきちんと払って地域に貢献している人が、親が死んだことで、基町を出なければいけない状態は無いようにしてもらいたい。

(広島市)

- ・潤いとは、中央公園から連なる広大な緑の空間をイメージしている。

- ・この度の計画は、実効性のあるものにしていく。
- ・特例的入居の10年間の規定については、条件にもよるが、10年を越えて入居できるようにしている。
- ・特例的入居ではUターン世帯についても導入している。
- ・空き家をできるだけ公募に出していく。
- ・特例的入居の入居者名簿はお示しできるかどうか検討する。
- ・窓口部門と連携をとって、対応していく。

(山本委員)

- ・小学校では、多文化共生として特別な先生をつけてもらったり、先生方もがんばっていただいている。
- ・しかし、(小学校の児童は)日本人が3割、7割が外国にルーツを持つ子どもたちというのが現状であり、保護者も同様である。保護者同士の連携も難しくなっている。簡単な連絡でも非常に難儀している。個人情報観点から、他の学校は電話による連絡網は無くなってきているが、基町では、日本語を文字だけで理解し辛い外国人の方が多いので、(電話連絡網を)使わざるを得ない。保護者同士が連携できる、多様な文化が交流できる知恵をお示しいただきたい。

(植田委員)

- ・外国人の比率が多い。(外国人の子どもと日本人の子どもの)比率が逆転している。日本人の子どもも入学するよう、(日本の)若い世代を入れてもらいたい。
- ・外国人の児童への対応はしているが、日本の子どもにも同等の対応をしているのか、保護者が不安になることがある。
- ・多文化共生を目指すにも、現実的にはいろんな問題が出てくる。
- ・基町を立て直すのは私たちだと思っているが、どうしても行政の力が要る。しっかりと考えていただきたい。

(徳弘座長)

- ・昔は異文化交流と言っていたが、今は多文化共生という考え方となっている。

(今富委員)

- ・現行の活性化計画は、実効性がないということだろう。最初に報告があったように、実施率約5割ちょっとということで、住民の皆さんにも一体どういうことが成果として出たのかが良く見えない状況であったと思う。
- ・しかしながら、今の計画を見ると、非常にいいアイデアがたくさん載っている。平成25年にお作りになった時に、相当議論されたのだろう。これが全部実施できたら、基町の課題は大方解決するというぐらい、いいものが詰まってると思う。
- ・ただし、数が多い。それから、本当に実現できるのかというようなことがあまり吟味されていない。さらに言うと、誰が、いつ、いつまでに、どうやってやるか、そういう道筋が見えていない。そういったところが課題である。
- ・今度の活性化計画は、実効性のあるものにしていく。
- ・次回の協議会は8月だが、それまでに地元の会議などで、テーマ毎に議論し、それを持ち寄って会議に諮りたい。

(瀬戸口委員)

- ・松井市長と話をした時に、優先順位をつけてはどうかという話をされていた。覚えておいてほしい。
- ・住民への今日の協議結果の報告を今までどおり掲示及び全戸配布でお願いしたい。